



城南中2年生と手をつないで避難場所を目指す王子ヶ浜小1年生

新宮市立の城南中学校、王子ヶ浜小学校、王子幼稚園は26日、合同災害避難訓練を行った。同中学校178人、同小学校355人、同幼稚園21人が、一般道路を通り、高台にある近大新宮高校・中学校へ避難した。

「助ける側」の心構えも 城南校区で合同避難訓練

地震・津波想定 高台へ

避難する中で、中学2年は小学1年、中学3年は幼稚園児

今回の訓練では、震度6強の地震が起こり、津波も発生したと想定。中学1年の生徒は、裏門を出て近大グラウンドをめざし、東仙寺を通るルートで避難。中学2、3年の生徒は王子ヶ浜小のグラウンドで待機し、小学1年、幼稚園児と合流。中学2年の先導により、東仙寺を経由して避難した。小学2～6年はクラスごとに列を作り同小学校の正門を出て、同様のルートで避難場所を目指した。

国ふるさとづくり協議会の主催で、新宮・東牟婁管内の幼稚園や保育所で

森林の働きや森の大切さを子どもたちに伝える「キノピー教室」が27日、新宮市の新木保育園で行われた。紙芝居「みんな

この後、キノピーや子どもらが登場する紙芝居を披露。そのなかで森の

説明した。教室では、紀の国ふるさとづくりマスケットキヤクターのキノピーが登場し、園児らは手を振り声をあげて歓迎した。県職員が「キノピーは森にある木の妖精。みんなと同じくらいの年齢です。きょうは森や山について話してくれます」と

和歌山県が非常勤職員募る

落ち葉の役割や水の大切さ、木と土砂崩れの関係性などについて解説を行った。教室終了後は、各クラスごとにキノピーと記念撮影を行った。子どもたちはキノピーに寄り添ったり抱きついたりしながら整列しカメラに向かって笑顔を見せていた。(尾崎涼)

森林の大切さにふれる

キノピー教室 紙芝居を通して

の手をつないで、避難補助を行い「助けられる側」から「助ける側」になるための心構えと姿勢を学んだ。

終了のあいさつで王子ヶ浜小の山本真也校長は、東京大学の防災教育に関わっている片田敏孝氏の言葉を紹介。「海の近くに住んでいるわれわれは、海の恵みを受けてきた。その恵を受

城南中の中田善夫校長は「中、小、幼での合同訓練は初めてだったが、とてもうまくできたと思う。みんな本番を想定して真剣に取り組んでいた」と講評した。(松本和也)



平成30年(2018年)

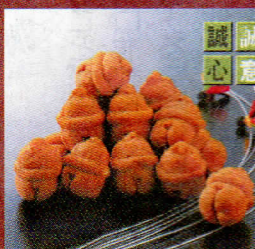
11月28日

水曜日

赤口

創業明治元年
御煎餅 鈴焼 處

香梅堂



新宮市大橋通3丁目3-4
☎0735-22-3132

発行所 紀南新聞社

〒647-0043
和歌山県新宮市緑ヶ丘
2丁目1番33号

購読に関する問い合わせ
TEL0735-22-4646

け続けていくには数十年、数百年に一度の海の「振る舞い」を受けないといけない。振る舞いとは津波のことであり、その時、われわれがすべきことはただ一つ「逃げる」こと。その時、その時命を守る判断を自分自身ですててください」呼び掛けた。